



TITLE:

労働市場分析の一例

AUTHOR(S):

菊田, 太郎

CITATION:

菊田, 太郎. 労働市場分析の一例. 経済論叢 1938, 46(3): 480-490

ISSUE DATE:

1938-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131067>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 三 號 第 四 十 六 卷

昭和十三年三月一日發行

論 叢

謂はゆる預金通貨の公式について……………

經濟學博士

小島昌太郎

共同體思想の國民的性格……………

經濟學博士

石川興二

社會的文化的變動の形式……………

文學博士

米田庄太郎

歐米に於ける日本學研究に就いて……………

經濟學博士

本庄榮治郎

時 論

農地調整法案に就いて……………

經濟學博士

八木芳之助

研 究

經濟擴張の理論……………

經濟學士

飯田藤次

貸借對照表分析論に關する若干の問題……………

經濟學士

岡部利良

說 苑

戰時に於ける女子勞働……………

經濟學士

大塚一朗

勞働市場分析の一例……………

經濟學士

菊田太郎

大量觀察法に關する一著作……………

經濟學士

有田正三

附 錄

雜 報・外國雜誌論題

(禁 轉 載)

勞働市場分析の一例

菊 田 太 郎

一

周知のやうに、アルフレッド・ウェーバーは工業の分布を運送指向・勞働指向・集積に三分する。そして運送指向・集積については演繹的に一般法則を樹立し得るに反し、勞働指向に關しては、その成否・程度が一經濟體內に於ける各勞働市場の具體的な狀況によつて定まるために、實證的な考察を要するとし、*Kapitalistische Theorie* なる標題の下に、専ら、勞働市場と工業立地との交互關係を論じてゐる。¹⁾ ウェーバーの勞働指向論を補ふものに、織維工業に資料を仰ぐウェグナーの論文「立地因子としての勞働」がある。²⁾

併し、ウェーバーは主に勞働市場の大小が工業分布に及ぼす影響、換言すれば、聚落の各種形態と工業との關係を論ずる許りである。ウェグナーも、「勞働市場

の場所的相違は、各勞働市場に於いて勞働の調達に要する費用の差異を意味する。各勞働市場間の限界は、供給され需要される勞働の特質によつて定まるが、その具體的な明示は著しく困難であり、従つて、各勞働市場の質的な組成を究めることも殆んど不可能である」と云ふ。³⁾ かく何れも視野を勞働市場の謂はざる數量的な側面に限定し、質的な構成には單に斷片的に論及してゐるに過ぎないことは、從來の勞働指向論の一大缺陷と見られる。蓋し、勞働はあらゆる生産手段中最も種類・變化に富むために、各勞働市場の勞働供給量・勞働水準が示されても、質的構成が明かでない以上、立地單位たる各種産業・經營に及ぼす牽引力が少しも明かにならないからである。

然るに、近刊の Eduard Willeke: *Von der raum-geordneten menschlichen Arbeitskraft (Eine qualitative Theorie des „Arbeitsmarktes“)*, Jena 1937. は、標題の示す通り、勞働市場の空間的組成・質的構成の研究でこの缺陷の一部を補つてゐる。本書は著者がプレスラ

1) Alfred Weber: *Industrielle Standortslehre*. (G. D. S., VI. Abt., S. 74 ff.)
 2) Karl Wegner: *Arbeitsorientierung als Standortsfaktor*. Jahrb. f. Nat. u. St., III. F., 78 Bd., S. 160 ff. 拙著、生産立地論大要、一四七頁以下。
 3) K. Wegner: a. a. O. S. 175.

ウ市より委囑された「シレシヤ割讓の勞働市況に及ぼせる影響」研究の方法論的部分に該當するため、やゝ抽象的な概念論に失する嫌はあるが、立地論の立場よりは勿論、生産力擴充に忙しい我が國民經濟の現狀に照し、示唆する點が多いと思はれるので、以下その大體を紹介する。

二

ウイレッケの分析は、ナチス革命以來有力になつた經濟の空間的觀察の一環をなすもので、勞働市場を先づ空間的に並存するものとして横斷的に觀察し、次に各勞働市場間の相互關係を考察する。この方法によつて、勞働市場に對して需要側即ち經營から作用する要素以外、供給側即ち勞働力に基づく要素、並びに、兩者の空間的對立から生ずる要素が明かになる。換言すれば、一經濟地域の自然事情・人文事情によつて定まる諸要素の総合的な作用の結果、各勞働市場の有するに至る構造の特殊性が明かにされるのである。

この方法は、大體に於いて、プレンゲがその著に用

勞働市場分析の一例

ひた方法を勞働市場と云ふ特殊な對象に適用したものと云へやう。即ち、プレンゲは、夙に、「經濟過程は、一方では、時代に適應し、時代によつて形態と強度を異にし、他方では、經濟空間内の如何なる地點に生起するかによつて極めて顯著な差異を示す。農業地域・家内工業地域・貿易港はそれ／＼獨特の經濟活動を有する。各地域の經濟活動の特殊性を完全に敘述することは不可能としても、屢々反覆して見られるものについてタイプを構成することは可能である」と述べてゐる。⁴⁾

勞働市場について特殊性の觀察、タイプの決定が特に必要なのは、次の如き事情に基づく。即ち、勞働市場の機構も、ある程度までは、他の市場と等しく、均衡理論によつて説明される。この均衡理論によれば、勞働市場の機構も、完全な可動性を有し、合理的・經濟的な考慮のみによつて行動する經濟主體が有する所の、一定量の用役の交換過程に外ならない。併し、均衡理論をある意味に於いて極限まで發展せしめたシュ

4) Plenge: Das System d. Verkehrswirtschaft, S. 28/9.

ンペーターは、勞働市場にこれを適用し得るや否やを疑問とする許りでなく、疑問の生ずる理由を明示して次の如く云ふ。「人間の勞働を普通の財貨と同一視すれば、その交換は賣手・買手の双方に最大の效用を與へ、交換される勞働の數量・價格は、他の總べての財貨の價格・數量と、完全な函數關係を有すべき筈である。もしこれが事實であれば、問題は直ちに解決されるが、詳細に検討すれば、事實でないことが明かになる⁵⁾」

然らば、勞働は如何なる點で他の財貨と異なるか。

この問題は既に屢々論ぜられた所であるから立入ることを略するが、一言で盡くせば、人格と切離し得ないため、(一)その交換が純經濟的考慮のみによつて行はれず、(二)完全な可動性を有せず、(三)また供給を任意に増し得ないこと、この三事情が主要なものであらう。例へば、等質の勞働であつても男女によつて勞賃が異なり、勞働者の移住は、經濟的理由以外に、愛郷心、都會に對する憧憬など心理作用に動かされ、經濟

狀態と人口とが照應するものとしても、その間一五—一六年の時の遅れが存在するのである。

従つて、均衡理論の假定と勞働市場の實情との間にはかなりの距離があり、勞働市場に於ける價格の支配は完全でない。その結果、勞働市場については從來の量的研究の外更に質的な分析を必要とするのである。

次に、充分具體的に觀察するとき、即ち、各市場特に勞働市場に於ける需給關係の變動、かゝる變動と共に生ずる經濟體の質的・量的變化、及び、勞働なる生産手段の特殊性を考慮するとき、勞働市場の狀況は如何なる基準によつて示すのが適當であらうか。

ウイレッケはこの基準として、(一)就業狀態の恒常性、(二)増加する勞働の收容力、(三)勞働に對する評價、(四)豫備勞働の伸縮性、この四項を掲げ、この基準によつて勞働市況を類別してゐる。基準の選び方は必ずしも適切でなく、特に立地論の見地からは不充分であり、又選擇の理由も示されてゐないが、今立入ることを略する。

5) Schumpeter: Das Wesen u. der Hauptinhalt d. theoretischen Nationalökonomie, 1908, S. 331.

三

現在の經濟形態に於いては勞働市場に強く影響する要素が需要側にあり、特に、勞働市場と國民經濟の全機構との連絡點は需要にあるので、この側面から分析を始める。

勞働に對する需要は、具體的に云へば、各經營の就業率の總和であり、就業率は各經營が國民經濟の如何なる機能を擔當するかによつて定まる。換言すれば、勞働は勞働者と分離し得ないと同時に、經營とも離れ得ないものである。従つて、各地の經營の勞働に對する需要を分析すれば、各勞働市場の特徴が或る程度まで明かになる筈である。

經營の就業率は、如何なる産業部門に屬するか、換言すれば、國民經濟全體の景氣變動との關係如何によつて、著しく相違する。

先づ、工業を見るに、周知のやうに、景氣變動の影響は、消費財生産部門と生産財生産部門とによつて異なり、又それらの部門の内でも、如何なる生産物を

勞働市場分析の一例

生産するかによつて、著しく異なる。カッセルの云ふやうに、「景氣變動の本質は、固定資本生産の變動に外ならず、他の生産部門に對する影響は二次的に過ぎない。」⁶⁾事實一九三二年一二月の就業率を比較するに、消費財部門の五五・三%に對して、生産財部門は四〇・二%に減じてゐる。⁷⁾併し、他の計數によつて、一九二九年から一九三〇年に至る間の各産業の就業率變化を生産財部門、需要變動の激しい消費財部門、變動の少い消費財部門に分てば、(一)三〇・五—(二)二四・三、(三)二九・〇—(四)二四・六、(五)二〇・一—(六)一三・一(%)であつて、生産物の種類により變化の率に大差あることが知られ、かなり詳細な分類を要する譯である。

商業の就業率は、職業構成の關係もあつて、工業よりも著しく安定して居り、一九二九—一九三〇年の變化を見るに、後者の(一)一五・三%に對して(二)二・〇%である。交通業就業率の變化は工業と商業との中間に位する。農業には自給的色彩が濃く、家族従業者が

6) Cassel: Theoretische Sozialökonomie, 1921, S. 503.

7) „Wirtschaft u. St.“ 誌による。

多く、本來の勞働者なるものは極めて少ないので、他の産業と同一意味に於ける就業率の變動は殆んど問題にならない。公務及び家事使用人の就業率も景氣變動と直接關係を有しない。

以上景氣變動に對する敏感性の差によつて、産業従つて經營を分類した。この差違は各勞働市場の需給狀態を決定する重要な要素である。各市場に對する需要を決定する經營が如何なる産業部門に屬するかを見れば、この市場の勞働市況が大體推知される。季節的變動に關しても同様のことが云へやう。

國民經濟或は地方經濟の構造變化を將來する産業の盛衰は、勞働市況に如何に影響するか。景氣變動・經營合理化等の影響のため攪亂されるけれども、結局に於いて、興隆する産業は人口の自然増加或は移住に伴ふ勞働の増加を消化し、衰退する産業は失業の一原因となる。衰退産業の顯著な例には、マイン河流域の紅砂岩採取加工業がある。その主産地ミルテンブルグの産額は戦前の三百萬馬克以上から現在の五二〇〇馬克

に、從業者數は一九〇五年の三〇〇〇人から一九三〇年の六八人に激減した。

産業・經營の勞働に對する需要の變化は、生産物が一種に限られてゐるか結合生産を行ふか、市場が國外か國內か、製品が貯藏性に富むか否か、設備・組織、勞働時間の伸縮性等によつて異り、更に各經營の収益力特に限界企業であるか否かによつて相違する。

この内、限界企業の問題は各勞働市場に特に重要な意義を持つ。蓋し、限界企業は立地條件の關係上一定地域に集中する傾向を示し、勞働の需給狀態を激變せしめるからである。限界企業は炭坑について特に顯著である。ルール地方に於ては北部よりも南部に不況の打撃が著しく、上シレジャが、比較的順調であるに對し、ワルデンブルグは大打撃を受けた。

以上、一地域の産業・經營の性質如何によつて、勞働市況が如何に異なるかを見た。併し、この差異は云はゞ時の問題であつて、勞働市場に永續的に影響する要素は寧ろ供給側に求むべきであらう。

四

各市場に於ける勞働の供給を決定する事情には、一般に勞働の量・質に影響するものと、移住現象とがある。

一般に勞働の供給量に影響する事情には、先づ人口の變動状態がある。これは自明のやうであるが、少しく詳細に觀察するとき、兩者の嚴密に平行するものではないことが明になる。例へば一九〇七年・一九二五年のドイツ職業調査の結果を比較するに、人口全體よりも有業人口の増加率の方が著しく大であり、ギェンターの計算によるに、一九〇〇—一九一〇年、一九一〇—一九二五年、一九二五—一九三〇年の人口全體の増加率と、有業人口のそれとを對比するに、それ／＼一五・三對一六・二、七・九對二〇・九、三・一對六・〇（何れも％）である⁹⁾。これは主として人口の變動と有業人口の變動との間に約一四年の時の遅れが介在することに基づくものであらう。従つて、年齢構成の如何によつては、人口が減少するに拘らず有業人口が増加する場

合、人口が増勢に轉じたに拘らず有業人口が減少を續ける場合、何れも共に可能である。

年齢構成の外、男女別も注意を要する。男子の就業率が極めて緩慢に増加する許りであるに對し、女子のそれは經濟状態・社會状態によつて著しく異なる。一九〇六年のイギリス截斷業従業者の男女別を見るに、經營形態によつて大差があり、家内工業に於ける男四九〇〇〇、女四一〇〇〇に對し、工場では女の方が多く男一四〇〇〇に對し、四六〇〇〇人を占めてゐた¹⁰⁾。大戰後のドイツでは婦人の職業戰線進出が殊に急激であつた。

かく人口の變動が直ちに勞働量の變動を意味しないとしても、兩者間に相當大なる相關々係の存在することは明であつて、都鄙による自然増加の大差は勞働供給量を決定する要素として無視すべからざるものである。

勞働の能率の差は、先づ、ある程度まで年齢構成と關連してゐる。例へば、ギェンターは二五—四〇歳の

9) Ernst Günther: Der Geburtenrückgang als Ursache d. Arbeitslosigkeit, Jahrb. f. Nationalö. u. St., Bd. 134, S. 923.
10) Käthe Gaebel: Die Heimarbeit, Jena 1913, S. 56.

男子勞働者の能率を一〇〇とすれば、一〇—一五歳は五、一五—二〇歳は四〇、二〇—二五歳は九〇と見られ、四〇歳以後は五歳毎に一〇宛減少し、六〇—六五歳四五、六五—七〇歳三〇、七〇—七五歳一〇と見積つてゐる。¹¹⁾又アルフレッド・ウエーバーは、精神が充分に成熟し、精神的職業では最大の能率を發揮する四〇歳には、工場勞働者は既に老境であることに注意を促してゐる。¹²⁾併し、年齢に伴ふ能率の變化は、勿論、職業・産業によつて著しく異なる。鑛山で一人前の勞働をなし得るのは、大體一九—五〇歳に限られてゐるに對し、繊維工業では一五—六〇歳であり、機械工業でも鑛山よりは老年に至るまで勞働可能である。従つて一地域が如何なる産業を有するかによつて、就業率に大差が生じる。

職業轉換能力は或る程度まで年齢と逆比例するが、年齢と無關係の場合も少くない。職業の轉換は三段に分つて考へられる。その一は從來の職業に新しい要求が附加される場合、その二は他の職業に轉するが社會

的な地位が變化しないか向上する場合、その三は社會的な地位の低下を伴ふ場合であつて、大體後の場合ほど轉換が困難になる。かく差違があるにしても、一般に新職業に對する適應能力は普通想像されてゐるよりも遙かに小さい。その結果、職業構成も各勞働市場の供給を決定する要素として重要な地位を占める。

失業による能率低下も注意を要する。短時日の勞働中斷は寧ろ能率を高めるが、失業期間が長ければ勞働能力・技能何れも著しく減退する。この關係は機械修理のための運轉休止と腐蝕とに對比出來やう。失業による勞働の減耗は、失業中も經濟的發展が停止せず、技術が進歩し、勞働のテンポが加はるとき、特に著しくなる。

五

工業の内、勞働指向工業は必要な勞働の豊富な地點を立地とするから問題はないが、一般の産業の分布は必ずしも勞働供給の分布と一致せず、従つて移住の問題が生じる。

11) E. Günther: a. a. O. S. 925/6.

12) Alfred Weber: Das Berufsschicksal d. Industriearbeiter, Archiv f. Sozialw. Sozialp., Bd. 34, S. 388.

移住の決定要素には先づ勞賃が數へられる。勞働力は明かに賃銀の低い勞働市場から高い市場へ移動する傾向を持つ。田舎と都市との勞賃の差は所謂「向都現象」を生ぜしめる。併し、勞賃の作用はその低下によつて過大な人口流入を妨げる程の弾力は有しない。

特に勞賃が必ずしも供給量を規定しないのは、勞働力が純經濟的考慮のみによつて動かされないからである。移住は、勞賃以外、人格發展の餘地、環境の好惡等に左右され、殊に、社會的な地位の低下を伴ふか、或は伴ふと感ぜられる場合、阻止される。

移住現象が勞働市況のみに動かされない結果、移住過剩の場合にも必ずしも反動が生じない。殊に勞力過剩地に於いても、新來の若い着實勤逸な勞働者は需要され、失業者は在來の都市居住者の間に生ずる傾向がある。更に、都市の移住者は短時日の内に直ちに都市化するもので、田舎への歸還を社會的な地位低下と考へ勝ちである。従つて、歸還には移住に見られない阻止的な要素が作用するのである。在來の能率劣つた勞

働者が驅逐され、都市化した移住勞働者がこれに代る結果、都市の勞働は變化し、その弾力性の一部が喪はれる。

移住が必ずしも勞働市況のみによつて定まるものではないために、移住には自ら一定の方向が定まる。併し方向の常に確定してゐるのは、季節的移住である。蓋し、季節的移住勞働者は故郷に狭小なる耕地を持ち、或はリツペの煉瓦焼工が國有林の勞働者として働くやうに、職業を有するからである。

移住によつて勞働の供給量が變動すると同時に、その質的構成も變化する。都市・工業地域への移住者の質については種々の意見があるが、優良な分子であるとする意見が多い。その代表的なものを挙げれば、下シレシヤ商工會議所聯合會の報告（一九二八年）には次の如く記されてゐる。「特に强健な勞働者が、間斷なく織布業を去つて、西部殊にルール地方の重工業地帯へ移住する。同質の補充は不可能だから織布勞働者の平均能率は年々に低下する¹³⁾。」精神上も優秀な分子が多

13) Görlitz: Über die binnenwirtschaftl. Verflechtung d. Provinz Niederschlesien, 1928, S. 83.

いやうで、デー・ランク二人の共同調査の結果によるに、調査人員の四一・二%が都市へ移り、移住者の調査人員に對する割合を上中下の社會階級別に見れば、それ／＼、四六・一%、四〇・九%、三七・九%である。移住者全體を終了した教育の程度によつて區分すれば、初等教育五〇・八%、中等教育三八・九%、高等教育五五・九%で、高等教育終了者中移住者は九六・九%に達する。教育程度は必ずしも精神的な才能を示すものでないが、アメリカについてはかなり正確な指標となる。¹⁴⁾

移住によつて優秀な労働力を著しく失ふ地域では、經濟に生産力・適應力を與へるだけの能力・創意の欠缺から、全然發展の認められないことがある。東プロシヤ衰退の有力な原因は優秀分子の移住にあり、その救済には工業化乃至は一般文化生活の向上を要するとされてゐる。

移住は労働者の年齢構成・男女別をも變化せしめる。前者から見るに、移住者が主に青年であるために、移

住者を入れる地域が有利で、出す地域が不利なことを原則とする。併し、一時に多數の移住を見れば、後に至つて労働市況を甚だしく惡化せしめることがある。例へば、ウエストファリヤの一地方では「移住の盛んな時代には青壯年が労働の基幹であつたが、現在では五〇歳以上及び二一歳以下の労働者が過剰で、労働市場の甚だしい壓迫となつてゐる」¹⁵⁾。

移住地の労働収容力は男女何れに對しても同一とは限らない。従つて、例へば、多數の男子労働者を吸引するルール地方は、女子の就業機會が乏しいので、女子労働者をミンスターランドの纖維工業地帯へ移住せしめてゐる。

要するに、移住によつて一労働市場の供給は、質的に、即ち能力・年齢構成・男女別より見て、著しく變化する。特に、移住が必ずしも労働市況に適合しないために、來住を見る地域が必要な労働を供給されと限らず、移住者を出す地域が、優秀な分子を失ふことは、國民經濟の大なる損失として注意を要する。

14) W. Gee and D. Runk: Qualitative selection in cityward migration, The American Jl. of Sociology, Vol. 37, p. 254.

15) Hilge: Der Westfälische Arbeitsmarkt, 1929, S. 20/1.

六

一勞働市場の需給状態は、その地域の産業集中の程度、産業構成、産業相互間の關係によつて甚だしく相違する。

産業集中の程度によつて、廣い地帯に平面的に營まねばならぬ農業しか有せず、従つて人口の分散する純農業地域、殆んど農業を見ず、人口の著しく集中する大都市・工業地域、兩者の中間に位する農工並存地域の、この三種を區別する。そして、第三が勞働の需給の最も容易に適合する地域で、他は何れもこれに及ばない。

所で、農工並存地域は更に三―四種に類別される。

(一)家内工業が農村に分散的に行はれ、農村の特色を少しも失はない場合、特に、家内工業勞働が副業であるか、或は土地所有と結合するとき。この場合農業・工業間の關係が最も密接である。(二)農業地域中に、中・小工場の散在する場合。現實に最も多い。(三)大工場が農村に存在する場合。これは集中の一種とも云

へるが、ウエッテンベルグのネッカーサルマー車輛工場のやうに従業員の大部分が農村に居住するとき、集中・分散の中間と見るのが妥當であらう。蓋し、中小經營が農業地域に散在するのと殆んど變らないからである。従つて、(四)従業員が工場附近に集中居住する程度に應じて、大都市或は工業地域に近くなる。何れにせよ、農工並存地域に於いても、職業轉換は容易と有限でないが、工業の不況時には農業に轉する可能性があり、又農家の負擔に歸し、直接勞働市場を壓迫しない場合も考へられる。

次に、集中する工業・鑛業が同種産業に限られてゐるか、或は多種に分れてゐるかによつて、需給状態が異なる。この場合一種・多種と云ふのは、地方的に何ら特化しない云はゞ「遍在的」な消費指向産業、及び地方的に特化した産業に附隨する補助業を暫く除外してゐる。一地域が一種の産業しか有しない場合には、その産業の盛衰及び景氣の變動は、直接當該産業に使用される勞働者のみならず、補助業・消費指向工

業の勞働市況をも急激に變動せしめる。例へば、ヘルネは鑛業に著しく特化してゐるので、一九二五—二六年の鑛業恐慌により數ヶ月間の内に人口一〇〇〇に付三七と全國第一の失業率を示し、二六年一月から二七年二月に至る間に直ちに全國並びにウエストファリヤの平均以下に減少した¹⁶⁾。又、一九三〇年のマンسفエルド銅山の閉鎖が重大問題となつたのは、軍事的理由の外、地方の勞働状態に對する影響に基くものであつて、當時次の如く報ぜられてゐる。「マンسفエルド一帯には何ら他の産業はないから、一三〇〇〇の銅山勞働者、その家族、勞働者を顧客とする商人、手工業者は全部失業の外はない¹⁷⁾」と。

之に反し、多種の産業を包容する地域では、職業の種類が多く、景氣變動・構造變化の危険も減少される。職業の種類に富むため勞働の需給状態の良好な例には、ビーレフェルド附近、及びウエッテンベルグがある。ビーレフェルドでは、「金屬工業は歴史的な理由もあつて殆んど男工のみを使用するに對し、既製服

工業は優秀な婦人勞働者のみを使用する。やゝ劣つた婦人勞働者は織布工となり、残りは紡績業・補助業・消費財工業に従事する¹⁸⁾。ウエッテンベルグの「ロイトリンゲン・エービンゲンには、金屬工業・織維工業・染色業・木工業・皮革工業が並存するために、人口増加に伴つて増加する勞働が都合よく消化される。エービンゲンの精密天秤工業の従業員が男子のみであるに對し、莫大小業のそれは八〇%まで女子である¹⁹⁾」構造變化の及ぼす危険を複雑な産業構成のため免がれた例には、ジーゲンがある。「鑛業・製煉業は衰へたけれども、之に代つて壓延・鑄物・機械・トタン等鐵の加工業の使用人員が著しく増加した。一九二六—三〇年の失業率が全國平均以下であつたのは、かゝる産業構造の多様性に基く²⁰⁾」。

- 17) Die Manfelder Subvention, Frankfurter Zeitung 1930, Nr. 546.
- 18) M. Sogemeier: Auslese u. Anpassung in d. ind. Entwicklung d. Ravensberger Wirtschaftsgebiet, 1930, S. 217.
- 19) Willeke: Die Arbeitsmarktgestaltung unter d. Einfluss d. wirtschafts-räuml. Dezertralisation. Jahrb. f. Nationalö. u. St., 1930, Bd. 132. S. 705.
- 20) Siegen の Arbeitsamt 報告による。